

木津川堤防強化工事に伴う希少植物保全の立会い 22日 14:00～15:00 今年度の木津川堤防の補強工事として予定されているのが木津川堤防の右岸で、木津川市山城町域でマキエハギなどの希少植物の生育地で実行されます。やましろ里山の会が発見するまでは京都府下では日吉町で3本が確認されているだけでした。ところがこの貴重なマキエハギが山城町の木津川堤防には当たり前のように大群落として生育しているところを発見しました。加えてカワラサイコやスズサイコも生育するすごい場所だということになったのです。以来この地域一帯を本会の一番の貴重植物の生育地として管理観察を行っています。今年度の堤防強化工事の実施にあたり、できる限りを尽くして生育場所の保全に全力をお願いしました。①約20m幅 10m程度の群落密集地の剥ぎ取りと戻しを強調しました。②木津川出張所は生育植物一本一本を植木鉢状に引き抜き移植先に移して工事が完成すれば元の位置に戻すということでした。③他の場所はユンボで剥ぎ取りダンプで移動させ、完成すればその土で表土利用するという三通りの方法を取り入れるとのことでした。基本的には貴重植物が単独で生育してのではなくて、多くの多様な植物と共生しているので、一部を取り出して保存するやり方ではなくて、その環境そのものを面としてとらえなければなりません。①での対応を強く要望しておきました。

里山農園の草刈り実施 23日 24日に行われる里山農園でのお茶会や芋煮会、十二夜の月見会に間に合うように、農園の雑草を刈り取っておこうと午後から作業を進めました。6号地7号地そして南の道と中の道、続いて17号地18号地19号地、加えて20号地（エノキノ林）の雑草を刈り取りました。夏に刈ったままでしたので、随分と大きくなってハンマーモアも時々エンジンがストップするほど太く高くなっていました。そして10号11号地の草を刈り、南の道の草も刈り取り調査観察に支障のない状況に草を刈りました。竹蛇籠の設置準備のために9月と10月のほとんどの時間を使ったので、里山農園などの草刈は手放し状況となっていました。主なところは刈りましたが、畦の草刈と13号から16号地の草刈が残っています。2日間にかかる草取り量が残っています。

里山農園で24日 10:00 から植物調査を実施。名古屋から桜谷先生がお越しいただき、里山農園の秋の生き物調査を行っていただきました。また、通年オオムラサキなどの観察ができる観察台の設置についての助言もいただきました。午後に予定していたのが14:00からの教育棟での「お茶会」で、伊藤千恵子さんによるお点前でおいしいお抹茶をいただきました。深田理事長による京菓子の老舗「米万」のお菓子が用意されひと時を楽しみました。この日のために青代さんがめったに手にすることの無い最高級品・百万円のお茶碗4個を揃えていただき、贅沢に使用させていただきました。17人全員が輪になってお点前を頂戴、続いて**16:00** 芋煮会と炊き込みご飯を女性陣の奮闘で腹いっぱいになりました。朝から掘り出しできた新鮮そのものの薩摩芋を煮込んでいただきました。

17:30 十二夜の月見会です。夕やみ迫る里山農園で東の谷間の山の上に十二夜の月が輝きました。この日は風が少しありましたが、まさに秋晴れの雲一つなく月見には絶好の青空でした。日ごろはゆっくり月を見る時間の無い皆さんでしたが、この時ばかりはきれいな夜空を見上げて月の姿に酔いました。

18:10 この日のまとめをして、また25日の城陽市での緑化まつりと団地での朝市への協力をお願いして散会しました。次回にはぜひお越しください。

城陽市緑化祭り 25日(日) 午前8時会場に展示物や綿菓子機の機材を積んで到着しました。会場は城陽の東の山地で一日に15000台のダンプが山砂利を運び出した跡地の復元を目指しているたいへん広い公園です。模擬店や展示用のテントが30張り以上立ち並び、めいめいの準備が始まっていました。

里山の会は綿菓子と松かさツリーでの協力です。自分で作る綿菓子・参加型が人気を呼んで昨年は行列がずらりとできてお隣の売店にご迷惑をおかけしました。今年は本部の配慮があつて行列があつても迷惑の掛からない場所を指定されました。やはり今年も1時間待ちの行列が発生しました。

松かさツリーづくりも準備中にも関わらず来客があつて、開店時間前でしたがツリーづくりへの挑戦が始まってしまいました。10人分のセットを用意しているのですが、一日中満席続きで、ここでも20人ぐらいの行列が発生しました。この日は松傘ツリーと綿菓子に400人以上の来店がありました。準備には相当な量を増やしましたが品切れ完売となり、最終時には幼児は納得がいかず親御さんにご迷惑をおかけする場面もありました。

団地の朝市 25日 8:00~9:00まで 毎月最終日曜日に開催が決まって6回目となるもので、今回も用意した野菜は完売となりました。掘りたてのサツマイモやもぎたての黒豆等の人気商品はたちまち売り切れ状態となります。次回は11月29日を確認して会場を後にしました。

第50回京田辺市民文化祭に模擬店と里山活動紹介の展示物で参加、ご来場大歓迎です。京田辺市立中央体育館 10月31日と11月1日の二日間で午前9時30分に開場です。里山の会の模擬店は定番の糖度14%の鹿背山の柿販売と世界に一つのオリジナルな松傘ツリーづくり、そして自分で作る綿菓子体験をメインに参加します。柿は数量に限りがありますので、売り切れごめんをお願いします。展示物は楽しい里山農園の活動紹介、そして今年のメイン作品は木津川生育植物標本写真集の展示です。木津川に生育する植物917種のうちで662種の標本写真を網羅した写真集です。採集植物の標本化と整理、そして同定作業を繰り返し、写真撮影のうえ冊子化の作業と気の遠くなる大量の作業を繰り返し、やっとまとめ上げた珠玉の植物資料です。京都府地域力再生プロジェクト事業交付金を得て作り上げたもので、一冊5万円の原価となっている作品です。ぜひ一度手に取ってください。国会図書館やその他大学や図書館に寄贈しています。続いてオオムラサキの産卵中の撮影に成功した貴重な撮影を展示いたします。今年7月4日の観察会で初めて産卵する瞬間に出会い撮影に成功しました。貴重な写真も見所です。10月17日18日に飯岡の木津川浜で設置した竹蛇籠の写真も展示いたします。これは10月3日4日に真竹200本の伐採を行い運びこみ、そして4つに竹を割り800本の材料づくりの大作業、一方1.5kmに及ぶ通路の整備と玉石の運搬、竹蛇籠づくりへの参加者100人募集作業と整理、17日・18日の竹蛇籠づくりと引き続く木津川本川に設置する土木作業の経過を写真で発表します。ぜひご覧いただきたい成果物です。里山の会19年間の集大成の一環となるものです。この取り組みは、瀬を生み出し、ワンドの誕生、そして魚の棲みかを作り出し、生き物に優しい川、人に親しみやすい川への試みとしたものです。同時に京都大学の学生による環境調査を行いデータ作成もされるものです。

近畿地方整備局からのヒアリング 29日 里山の会の活力の源泉は何か?との質問でした。里山の会の活動の原動力は、毎週水曜日午前9時30分から開催される事務局会議でイベントの振り返りや進め方を相談し話し合う場があること。この会議にはだれでも参加できる条件で、発言に責任追及はなしで、気楽に進めていることです。そして春と秋に発行する機関誌「里山の自然」を全会員に届けていることで、年間活動が手に取るようにわかるように配付していることです。この会誌の原稿募集を行い、手分けしながら文字化し、手作りで180頁となって現在39号を編集している。週刊ニュースの発行が589号になり fax, やメール、手配りで約2/3の会員に毎週届けていること、こうした活動の透明性があるから、会費の100%に近い納入が自主的に行われて、信頼関係が築かれているのではないのでしょうか。そして財政の確保には農園作業で栽培された成果物の販売、特に毎週月水金の100円コーナー等あらゆる催しで成果物の販売を進めて不足する財源を確保している。こうした財源確保と合わせて交付金の支給もあって、完全ボランティアの手弁当で活動し、観察研究成果や記録集を整えて広く刊行物の経費としてすべてを投入して、貴重な自然の記録を普及している。特に学者先生からご指導をいただき活動に取り組みそれぞれが多く知識を身に着けることが大きな喜びになっています。本会の顧問団の先生の優秀さは素晴らしいものがあります。こうして年間100回近くのイベントを行い「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」スローガンのもとに、楽しみながら活動を行っていることを説明しました。

京田辺市民文化祭 10月31日と11月1日の二日間恒例の京田辺市民文化祭が開催され、里山の会では延べ33人の支援があって、昨年以上の売り上げがありました。模擬店では、まず定番の松かさツリーでは200人の参加を得ることが出来ました。次に自分で作る綿菓子では260人以上の方々に綿菓子つくりの経験をしていただきました。夜店などではお金を出して買い求める駄菓子ですが、里山の機械がかなり大きめなので、子どもさんでも巻きつけられるので、大きな綿菓子が作りあげられます。年々自分で作られるので楽しみにしておられることが定着してきて人気が出ています。農園野菜の販売では、なんとといっても里山の会の『柿』は味の良さから売れ行きは絶好調です。特に鹿背山の青木の柿として販売しているのも、一般的な商品と比較しても甘さは格別で、これが会の本物の味だと説明すると試食された多くの方々が買い求めていただきます。次に無農薬で栽培している野菜も非常に人気で、柿に次ぐ収入源となりました。今年は竹蛇籠の取組みが9月から続いてきたので毎年人気を持つ「つる籠」や木酢液や竹酢液、それに木炭などの商品準備が出来ませんでした。特に昨年目を引いたコットンボールは栽培がうまくゆかず出展できず少し残念でした。

取組みのもう一つの、◎展示物は、毎年かなり充実して人気を博しています。今年のトップ展示はなんとといっても「木津川生育植物標本写真集」(原価5万円)の発刊とその発表でしょう。約16年間に及ぶ木津川堤防の調査観察を通じて採取した植物の標本化を行い、村田先生の同定を得た貴重な現物標本の写真集です。後世に必ずすごい作品、成果物として評価される時期が訪れると確信する書物です。次に里山農園、自然体験塾の教育棟でのオオムラサキの産卵写真に成功し、その写真の展示でしょう。顧問の桜谷先生も人生でこの場面に出会ったのはわずかに二度目だそうです。それが里山農園だったのです。そして驚いたことに、わずか20分後に別のオオムラサキが再び目前で産卵を始めたのです。その写真だったのです。展示スペースのスカート部分に先日設置した竹蛇籠の横断幕を使いました。そこには本物と見間違えるほどの竹蛇籠の写真がプリントされていて、これがあの新聞に掲載されていたものですかと、訪れる人の多くが関心を持たれました。コンクリ

ート社会の今日ですが、少し前では自然素材の竹を使って治水や利水、洪水を防ぐ主流として自然に優しい竹蛇籠が広く使用されていたのです。今回の竹蛇籠づくりの講習会を記事にしてくれた新聞を見た方々が大勢おられました。そのほかこの夏に4回実施した「魚とり」の写真や農園活動の紹介写真にも関心を示していただきました。他団体の展示物との比較では、大多数が個人の作品が中心で、サークルなど集団での取組み成果物や自然への働きかけを訴えた成果物が少なく、里山の会の発表はかなり迫力ある内容だったと思われます。ご覧になられたご感想をお寄せください。

この間の取組と里山の会の力量 夏から始めた具体的な竹蛇籠づくりは誰一人として経験のない暗中模索の取組みでした。どこまで準備が出来たのか何が不足するのか、到達点が判らずに取り組まなければなりません。ここにかなり神経を使いながら環境庁から講師を招いた第19回里山講演会 開催日がバッティングした花散策、竹切場の確定と作業場所の確保、稲刈りと新米販売配達、竹蛇籠の試しづくり、何よりも体力の必要な竹伐採、運搬と竹割作業は疲労困憊でした。そして稲刈りと新米ご飯の振る舞い、竹蛇籠づくりでの二日間で200人の炊飯作業、もちろん竹蛇籠づくりの大仕事と設置作業と後始末、引き続きお茶会とごはんの準備、そして城陽緑化祭りの大イベント、二日間に渡る京田辺市民文化祭での展示と模擬店出展、よくもこれだけすごい取り組みを連続を成し遂げたものだと思います。その裏では会誌39号の発刊、里山農園自然塾でのオオムラサキの年中観察できる観察台の建設を進めながらの作業です。素晴らしい多くの仲間が力を一つに合わせて、前進したので、これだけのことが推進できたのです。素晴らしい仲間万歳と叫びたくなります。本当にご苦労様でした。これからも仲良く頑張り続けましようね。

観察台の建設が進む 夏のオオムラサキの産卵写真の通り、素晴らしいオオムラサキの生息する里山農園自然塾です。ここに年間を通して観察できる観察台の設置を進めています。有田勉さんを中心に皆さんで進めています。基礎の土台が完成しています。観察台の床骨を組み上げるところに差し掛かっています。しっかり取り組めば1日で完成でしょう。続いて階段の設置が難問です。これまでの経験では少し測りかねるものです。一応完成させ竣工日を登り初めを28日と予定しています。この日は植物観察とバッティングしますが、顧問の桜谷先生のご都合もあって、この日になりました。ご理解を賜りたいと思います。

● 里山農園 自然体験塾 観察台建設順調に進む

本体部分 4m の床部分に到達 階段の基礎を打ちこむ

里山農園のエノキの林は 20 本以上の群生で昨年度のオオムラサキの幼虫は 33 匹が確認されました。そして夏の観察会では成虫が同日にわずか 20 分後に 2 匹の成虫が産卵する現場に出くわすという貴重な経験が出来ました。成虫に出会うこともなかなか難しいのですが産卵に出会ったのです。それだけこの場所の環境がオオムラサキにとって大変いい環境なのです。従ってエノキの葉の高さと同じ観察台が出来ればエノキの葉にくっついて成長する幼虫を直接目にもすることも不可能ではありません。桜谷先生によると日本でオオムラサキを直接観察できる観察台は最初の施設ではないかとお話になっておられます。間もなくそれが出来るのです。観察台への昇降階段の設置が始まりました。27日28日に「上り初め」を予定しています。出来る限り多くの皆さんのお越しをお待ちしています。きっとエノキの葉にくっついている幼虫を発見できるのではないかとわくわくしています。

● 秋のハイキング 14日大江山のモミジ狩り

年度当初に予定していましたが、この秋には竹蛇籠の設置作業に日程を随分とられて具体的な準備がほとんどできていなくて、14日を迎えることになりました。とりあえずモミジの終わりのころだということですが、大江山に紅葉狩りを兼ねてハイキングを取組みます。14日の土曜日午前7時30分に新田辺駅西口集合出発をいたします。あいにく空模様は怪しいらしいのですが、大江山林道は立派に舗装されているようですので安全との事ですから、訪ねてみることにいたします。参加費は当日の顔ぶれを見て割り勘といたします。高速道路利用ですと2時間30分程度で大江山到着との事、多くの皆様のご参加をお願いいたします。雨具と足元しっかりした靴をご用意ください。温泉入浴も考えられますのでご準備ください。

● 河川基金への助成金申請について ご案内を頂きました。インターネットを開きますと、魅力的な助成制度です。私たち里山の会としては是非申請してみたいものです。木津川での川ガキ育成の魚とりと親水公園水辺整備、そして堤防強化工事後の植物再生観察調査をセットにして申請してみようと思います。次年度は里山の会が発足して20周年を迎えるので、絶好のチャンス助成金の活用として成果が上げられれば幸いです。申請期日は11月末日なので、よいご提案があればご連絡いただければ幸いです。提案お待ちしております。

● 第33回木津川マラソン大会・第2回実行委員会開かれる それに先立ちエイド会議も7日に開催されました。京都府ではマラソン大会の老舗は京都木津川マラソン大会が33回目を迎えています。福知山マラソンは開催回数では木津川マラソンより2回少ないわけです。その分老舗という事が出来ます。そして何よりも制限時間の無い大会で、日本でも数少ないものです。何よりもこれまでは大きな事故もなく安全に開催できて、コースは一般道との交差点はほとんどなく長い急な坂もないかなりフラットで走りやすく、距離標示も1kmごとにされて、初心者にも大変優しいマラソンです。今年の総参加者は5154人(昨年は5443人)を受付けました。これまでに専門部署の打合せ会議を、うどん部会、競技部会、安全部会、エイド部会など数回開催してきました。改善改良点を出し合い、いい大会目指す取り組みが報告されました。アールビーズの昆野さんから日本のマラソン大会の特徴について講演をいただき、出席者一同大いに学習を深めました。

● 来年度の京都府地域力再生プロジェクト事業交付金の申請事業を検討 11日の事務局会議で、次年度の地域力再生プロジェクト事業交付金の申請について相談しました。京都木津川の残したい草花たちを発刊して以後10年が経過しているため、その後の917種の植物写真集の発刊を計画してみても話し合いました。特に堤防強化工事による植生の大変化を正確に記録することも大切だと思われまふ。真剣に取り組めればいいチャンスだと思ひます。

● 来年度2016年は里山の会結成20周年を迎える 記念事業について議論が始まる ここまでよくも継続してこられたものですね、まさに嵐もあり雨も降り山あり谷ありの取組みでした。そこで記念講演会や祝賀会の開催、会誌40号記念号の特集、週刊ニュース600号記念、懇談会議の開催、全会員の大集会、実績ツアー（竹蛇籠 里山農園 里山倉庫、炭焼き釜 教育棟や観察棟、木津川流域センター）京都府環境フェスタ連続出展記録、京田辺市民文化祭連続出展参加のまとめ、世界遺産を訪ねる旅のまとめ集約、希少植物調査観察のまとめ、年表里山の会20年の歩みの充実、会計から見た里山の会の20年等について整理すべきではないかと提案されました。新年度に間に合うように取り組もうといった声がありました。そのほか会員の皆様の一層のご協力及び資料提供とお願いいたします。

● 21日 城陽市環境フォーラムへの出展場所決まる 昨年に引き続き出展の要請がありました。文化パークでの取組みです。内容は松かさツリーつくりと蛇籠つくりの取組み紹介展示を予定しています。多くに皆様との交流を深めるいい場面として大いに交流を深めあひましよう。

● 竹蛇籠右岸の中央部分に笹竹垣方式で完成させます お手伝いにお越しくたさい 玉石入れは15:00から始めます。二日間で180名の参加があつた竹蛇籠を作ろうにはその後大きな関心が見られます。右岸に三つの蛇籠設置が予定されているけれど三カ所の完成はいつになりますかとの問いあわせが数件ありました。またその後の管理はどのようにされるのでしょうか。完成すれば調査に行かせていただいてもいいのでしょうか等自らの手で研究してみたいという方々が多数おいでになるようです。私たち里山の会では二日間で到達できたところが完成と考えてきましたが、このように多くに皆さんから関心が寄せられ注目されているのなら、残っている右岸の2号蛇籠の完成を行うことを確認しました。11月19日（木）に笹竹蛇籠を完成させます。出来るだけ多くの皆様のご参加いただければありがたいです。準備は午前中から行ひます。玉石入れには少なくとも10人以上の人の手が必要です。竹蛇籠は頑丈な基礎の上に設置していないので、水流で下部の砂が流されることが予想されるので、完成した形状がいつまでも維持することは出来なく、変化が起きます。流砂による形状の変化もまた楽しい出来ごとでしょう。右岸の1号基は、早くもその兆候が見られるようです。確認いただければありがたいです。

●秋のハイキング 14日 8名の参加 大江山ハイキング

朝…雨模様 天気が心配 7時30分新田辺駅出発。高速道路が順調に進むが大山崎前で大渋滞が発生。京都北部への通路は確保されすごく順調に稼ぐ。京都縦貫道路の開通により1時間程度で和知のサービスステーションでトイレ休憩。9時前なのにかかなりの車が押し寄せていた。

黒豆の高値にびっくり 378円で一掴みの小袋…黒豆味噌の量と比較するとものすごい味噌の値段になる。休憩もそこそこに出発する。今回は播川さんと小川さんに車の提供と運転を依頼する。お二人ともベテランの域に達しておられ、至極安心してドライブを楽しませていただいた。

10時前に元伊勢神宮で時間をかけて参拝、赤いマムシクサに鳥居の横で出会った。神社への通路は一昔前の旅籠の風情を残している、心癒されるミニ馬籠のような町並だ。11時には日本鬼の交流博物館を訪れた。入館右に神童寺の鬼瓦が展示されている、しっかり展示物を鑑賞、この日は入館料無料、お礼を言って、山頂に向かう。林道は七曲、そのうえ、のぼり連続のなかを前進、12時過ぎに鬼嶽稻荷神社に到着、紅葉の見ごろと報道されていたがブナ林は落ち葉だった。急いで山登りの準備、幸いに心配していた雨はなく順調に登山が出来た。最初の階段がきつく、これが続くととても無理かなというほどきつい登りだった。それぞれ元気で250mへの高さに登りました。

下山して来る2組のパーティと出会い挨拶を交わす。頂上に近づくに従って北の風がヒューヒューと強く吹きぬけている。約1時間で大江山山頂832mの千丈ヶ原に全員が到着、非常にきつい風が吹き抜けている。8人が腰を掛けると満員になる文字通りの風よけ小屋で昼食弁当を食べる。播川さんの大きなお結びの振る舞いや、森さんや芳川さんのお菓子やミカンがおいしかった。全員が満腹、食べ終わるや否や集合写真を撮影、このままだと天候の急変が気になるので大急ぎで下山を始める。汗が引いたので、小川さんがジャンパー姿の青代さんにヤッケを提供。落ち葉で滑りやすいので注意しながら落ちて足速める。雲が低く風の音が大きくて、周りの景色はかすんでいるので気に留めず、足をただ進めた。全員が下山したのは1時50分で、要した時間は40分弱ということになる。出発点に戻り休憩所で一息入れて、ミカンを一個食べ終わると、雨の音が大きく屋根に響き始めた。本格的な降雨である。山の天気は一瞬に変わるものだ。みかん一個食べる時間遅くなっていたら全員ずぶぬれになるところだった。なんとという幸運だったのでしょう。すると先に下山した8人余りのパーティのうち80歳の女性と付添の60台の女性が戻っていない、出会わなかったか、と雨の中で73歳の方が心配顔で訪ねてきた。多分、分かれ道で右に直進したのであろう。すぐ携帯電話で連絡を取りなさいと助言、連絡が取れたらしい。少し安心、しかしこの雨なので、ずぶ濡れだろうと思う。ガイド地図を渡しておいた。大江山の東を通る普甲峠超えのルートで宮津市に向かって出発する。府道9号線らしい、宮津に下り、舞鶴でお土産を買った。

京田辺市花住坂に到着は5時45分だった、舞鶴から1時間で帰ったことになる。随分と近くになったものだと実感した。運転頂いたお二人さんご苦労様でした。9月からラッシュアワーのような日々の続きでしたが、リラックスできた一日になりました。又明日から頑張る力がわき出るような気がします。

●会誌39号の読書会から

いい表紙写真で興味を引くようです。写真が多くあって親しみやすい、記念の40号に向かって編集方針を持って取り組みたい、などといった声がありました。皆様のご感想はいかがでしょうか、ご感想を頂ければ、元気が生まれます。39号はかなり早く原稿が集約されましたが、竹蛇籠設置が10月18日と続き編集に時間がとれませんでした。初めて11月の発行となりました。それでも印刷機の性能がアップして製本の時間が短縮ですので文化の日の発行になりました。

●里山農園にオオムラサキの観察台・完成間近

28日に「登り初め」を計画 長年オオムラサキの生息調査を継続してきましたが、幼虫を冬に観察継続で生息を確認してきましたが、観察台の実現で幼虫の成長をランダムで観察が可能になります。そしてエノキの原木で、人工の手を加えないで、自然そのまま調べられます。この施設は全国で最初の施設ではないかと評価されるようです。京田辺市の素晴らしい環境にまた一ついい施設が実現しました。この記念すべき日に、これまで里山の会の発展に一方ならぬご理解とご協力を頂いたみなさんにご案内をさせていただきます。又雲上ハイキングとして150人ほどの皆さんが炭焼き窯にお越しになるようです。帰り道に足を延ばしていただければと、合わせて案内することになっています。

●植物部会が山城町の森林公園とその付近の植物観察を

28日に実行 御参加下さい。不動川上流に設置されている森林公園は、土木学会では知らない人はいないといわれているオランダの土木技師デレーケが西洋土木技術で日本最初の砂防堰堤を築き、木津川への砂の流出防止対策を行いました。これを訪ね付近の樹木などの観察調査を行います。京田辺市役所の駐車場に集合9時45分です。乗り合わせて移動する予定です。

●20日 京都河川美化団体連合会が

木津川を初めて訪ねて来られます。笠置から流れ橋、御幸橋までをコースとされています。14時には木津川流域センターで沿川団体の交流会が予定されて、里山の会にも出席案内が届きました。理事長副理事長が出席予定です。他に河川レンジャーも参加されます。そして先日設置した竹蛇籠を見学されます。竹蛇籠設置以後、最初の見学者が約40人お越しになります。

●11月18日 昨夜からの雨で木津川の増水で、

1か月前に設置した竹蛇籠全体が水中に入って、わずかに背中が水面上に出ています。しばらくこの水量が続くと面白い景色が見られるでしょう。

●城陽市の環境フォーラム(21日)に出展します

昨年に引き続き展示と松かさツリーづくりで参加します。興味のある方、お越しください。楽しい愉快的そして賑やかなイベントです。

●事務局会議では

今年一本の茎から5輪の花が咲いたササユリを農園のシンボリックな植物にしたいという声が上がりました。市販の種を付近に植え付けて見栄えを良くしてみてもどうかということでした。この提案がきっかけになって、里山農園のこれからとか、持込種による栽培をどのように考えるのかについて議論をしています。関心をお持ちの皆さんのご意見を頂ければ参考にさせていただきます。ちなみに里山の会のスローガンは「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」と掲げて約20年間活動を続けてきました。こうした経過を踏まえてご意見をいただければ幸いです。

●京都河川美化団体連合会さんが木津川パトロールに来所

20日午前10時に 1) 四季彩館に集合、流れ橋の見学を最初にして、笠置町でカヌーの石碑と木津川上流部の形式の見学、車中から銭司遺跡、恭仁京遺跡、奈良市取水口の見学を経て、2) 京都府山城郷土歴史資料館と、3) 上狛環濠遺跡を見学し、4) 木津川流域センターで里山の会との交流会を行って最終目的地、5) 竹蛇籠の現地視察を行う盛りだくさんの見学会でした。参加者は40名で京都市内を中心に川のごみ拾いなど清掃活動を30数年間実行されている皆さんでした。里山の会からは播川、福井、小泉、山村が参加しました。*四季彩館・流れ橋の見学では、流失した橋の修復工事が三日前からはじめられ、3月までに完成とのこと。約70本の橋脚を40本ほどに減らし、流圧を減らすこと、5本一組の脚の支柱のうち中3本を木製からコンクリート製に変え、桁部分を70cm高さに上げて増水対策を行う工事と、京都府北土木事務所職員からお話がされました。*京都府山城郷土歴史資料館では約30分の見学です。係員から詳しく展示物の説明を頂き、木津川沿線での人々の暮らしに大きな影響を及ぼしてきた水運を中心に説明を聞きました。*上狛環濠遺跡見学では、国道のすぐそばに、こうした遺跡が残っていることに驚きました。

*木津川流域センターでの里山の会との活動経験交流会では、福井さんから木津川の魚種の多さから見ると豊かな環境だが、魚の数量は減少している、原因は鵜や外来魚によると考えられるが、産卵に適した草むらの減少と水脈の固定化と深掘れのために失われているのが大きい原因と解説があった。山田さんから5回目の水質一斉検査報告がされました。1時間の交流でしたが、京都南部の木津川についてずいぶんと理解を深めていただきました。*竹蛇籠の現地視察17日の雨では、ほとんどが水中に没していましたが、この日は水量が減少して設置した一か月前の状況になっていました。右岸の2号は完成させるのはいつか、蛇籠の玉石はどこから運び込んだのか、竹の供給地は木津川ですか、といった質問が続きました。

●カヌーで下ろう 笠置から大阪まで 21日22日23日で下りました。<21日>

絶好の天気でした。笠置から京田辺までの最長コースです。昼食は開橋を予定して出発、しかし水量が少なく14時になりました。<22日> 出発の京田辺近鉄鉄橋では、地元の北川さん親子が訪ねてこられ、来年は親子で参加すると意欲的でした。低水域では河原区のおじいさんが一人で、流れ橋でもごみ拾いのお方に出会いました。それぞれの皆さんが川をきれいにしようと頑張っておられる姿に出会いました。京田辺グラウンドでは女子ソフトボール大会があって、スラッグのスピードは男子顔負けでセンターオーバー連発していました。近頃の女子スポーツの躍進の姿を見せつけられて非常に驚きました。昼食は御幸橋です、三川合流部のお話を幹事の仁枝さんからありました。<23日> 6時30分の駐車場に到着、淀川と1号線との間に、イタセンパラの飼育をしている淡水魚センターがあります。この前を通過して堤防に上がり少し下ると点野の駐車場です。7時にゲートが開くらしいが30分も前から並ぶ人が多数おられた。藤田カヌーさんも到着カヌーを船着き場に下して、毛馬閘門までトレーラーを移送、即点野に引き返す、続々と参加者が到着、カヌーを組み立てて出発準備、10:00に開会式では全員が自己紹介、曇り空だが雨の心配はなさそう、風は北の風、押していくのは幸いだ。それぞれ順調に出発する。毛馬の手前桜ノ宮高校前で上陸して昼食、12時過ぎだった。ゆっくり休憩の後クライマックスの毛馬の閘門通過となる、去年の教訓から事前に十分な打ち合わせをしておいたので、閘門入港もスムーズ、艇の間隔も正確に守っていただいた。大川側の扉があいて、景色が一変する。ビルの谷間に入っていきようである。ここで雨が降り始めた。15:10分全員無事に上陸。三日間にわたるカヌーの旅が成功した。

●竹蛇籠の調査について学ぶ

22日 田中さんと菊地君が参加。竹門先生が学生たちと水生生物調査研究にお越しでした。そ

の折にせっかくの施設が完成したのだから、一緒に調査してみませんかとお誘いがあったお二人がご一緒に参加いただきました。先生から詳しくわかりやすく説明を受け、そして出来る範囲で気楽に調査をされて記録を積み重ねてくださいとの助言を頂きました。いい勉強になったとの事でした。

●里山農園・たまねぎ 800 本植付 森島大村芳川小泉澤江さん 23 日

三連休の最終日に、農園で栽培を進めていただいているみなさんが 800 本のタマネギ苗を植え付けていただきました。（昨年は 1000 本）そして収穫は 3 万円を目標にしていますが、今年はさらに大きく成長させようと 5 万円の収入を目指すことにしています。里山の会として貴重な収入源となる農園収入です。本当は出来るだけ多くの方々と一緒に植え付けが出来れば草引きなどの作業にも力が入り、その後の成長に関心を持っていただくことが出来て収穫も一緒に喜び合えるのですが、日程に追われて、今年も作業への参加を呼びかけることが出来ませんでした。出来るだけ早く残っている 700 本の苗を植え付けることとなります。二回目の植え付けには、多くの皆さんのお越しをお待ちしています。日時のお知らせは週刊ニュースとホームページをご覧ください。

●炭焼き小屋周辺の刈り草整備 22 日実施 森島、大村、芳川、小泉、澤江さん

曇り空、いつ雨が降ってもおかしくない天気でしたが、28 日に市内各所から 150 人ほどが集まってくるので、休憩所としている炭焼き釜周辺の清掃を行っていただきました。御承知の通りここは炭焼きにお世話になっている南さんの所有地です。4 月に南さんが負傷をされて治療療養中なので、6 月に一度草刈りを行って以来夏草が伸び放題でしたので、数日前に刈り倒しておいた雑草を片付け、遠路はるばる訪ねて来られた皆さんが気持ちよく休憩されるようにと整頓しました。三連休の中ご苦労頂きました。

●28 日には午前 9 時 45 分京田辺市市役所駐車場集合で森林研究の最前線の見学とデレーケ堰堤の不動川砂防歴史公園を訪ねます。里山の会としては初めての取り組みですので、ぜひ多く皆さんのご参加をお待ちしています。ガイドは山下さんをお願いしています。

●28 日午後 1 時 30 分、オオムラサキを年中観察調査のできる観察台登り初めを行います

ぜひとも多くのご参加をお願いします。桜谷先生は前日準備の 27 日、登り初めの 28 日の両日のご指導を頂きます。

●12 月 5 日（土）今年も大豊作のミカン農園へのボランティアをします。

観光農園が終わって、取り残したミカンを完全に採りきるために、毎年お手伝いに出かけています。今年は近年にない大豊作で、非常にたくさんのミカンが実っています。昨年は午前中で終わったのですが、今年は昨年の比ではない大豊作です。これまでにない人手が必要です。ご近所お誘いのうえご友人にも声をかけてご参加ください。皆さんのお越しをお待ちしています。

集合は 5 日（土）午前 9 時 30 分 JR 奈良線多賀駅前です。ご協力をお願いします。

12 月（師走と年初）の予定

3 日	竹利用の学習会 新田辺東商店街	前日準備 13 時より 12・13 日京都府環境フ	餅つきとしめ縄づくり 28 日 里山ハイキングコ
5 日	ミカン農家ボラン ティア	スタ 野菜販売 蛇籠・ホテル・	ース年末整備（午 前中）
6 日	原木切出し作業 里山農園 巨大ク ヌギの伐採 10 号地	植物標本 19 日 里山農園	29 日 御用納め 1/5 七草摘み前日準備
	農園周遊コース整 備	オオムラサキ調査 20 日 里山整備	6 日 七草摘みと七草粥 (里山農園)
11 日	京都府環境フェスタ	23 日 里山の会忘年会 27 日 里山の会年末	新年顔合わせ

●オオムラサキ観察台完成 28日登り初め

12名が集まり完成を祝いました。朝は曇り空でかなり気温が低く冷たい朝でした。10月は竹蛇籠の設置という大仕事を完成させて、11月には日本では最初かと思われるオオムラサキの観察台を完成させました。すごい成果の連続です。金曜日には有田さんを中心に最後の作業階段の取付けと踊り場の床の張り付けを行って、28日の上り初めを迎えました。基礎杭を打ちこんで以後、試行錯誤と思案の繰り返し、最終盤で少し無理をした不十分なところをつくろいながら、40日で完成となりました。理事長の挨拶に続き、オオムラサキ調査観察を中心に里山農園の経過報告、次に里山農園の充実発展に協力いただいた5名の皆様に感謝状の贈呈し、完成を祝って善哉で乾杯しました。カラスウリとスズメウリの紅白で飾りつけ観察棟の登り初めを行いました。テープカットでは藤蔓を利用したテープを深田理事長、桜谷先生、有田さんがカットしました。里山の会らしい自然を生かした素晴らしい登り初めの演出がされました。登ってみると予想通り、エノキの葉についているゴマダラチョウの幼虫を発見したと金田さんの説明に一同大感激。また、28日のわずかな時間に落ち葉に付いていて、冬準備のゴマダラチョウ幼虫5匹、オオムラサキ幼虫3匹が発見されました。19日の冬の昆虫調べ観察会が楽しみですね。桜谷先生は去年の34匹を上回る60匹が目標だと話しています。

一連のプログラムが終わった後、周遊コースつくりのために予定コースにトラロープ140mを張りました。雑草が枯れた冬の間、「歩きやすく自然の豊かさを学べるルート」を実現します。時間と暇がありましたら、少しの時間でも通路作りに手を貸してください。ご協力をお願いいたします。

●観察台の完成を機に、5名の皆様に感謝状を贈呈させていただきました、本文を紹介します

桜谷保之先生 「あなたは里山農園と普賢寺地域において自然観察会など生き物調査指導に格別のご指導を賜りました。この功績は誠に偉大であり、山城地域における自然への関心呼び起こしました。特に国蝶オオムラサキや絶滅寸前種のカスミサンショウウオの発見は特筆すべき成果です。このたびご提案いただきましたオオムラサキの観察台の実現に当たり、長年の尽力に感謝の意を表します」。

山本照夫様 「あなたは本会発展において自然を大切に作る仲間の輪を大きくするスローガンのもとに稲作栽培の世話役を長年賜りました。その功績は誠に大きくて里山の会の活動に貢献いただきました。今回里山農園にオオムラサキの観察台の実現に当たりその功績に対して謝意を表します」。

南五晴様 「あなたは本会発展において自然を大切に作る仲間の輪を大きくするスローガンのもとに炭焼き体験に格別のご理解と尽力をいただきました。今回里山農園にオオムラサキの観察台の実現に当たりその功績に対し謝意を表します」。

大村文子様 「あなたは里山農園の開設に当たり、積極的なご理解とご協力を頂き今日の農園活動への一歩を踏み出させていただきました。このたび国蝶オオムラサキの年中観察調査が可能となる観察台の設置に当たり感謝の意を表します」。

南恵美子様 「あなたは里山農園の開設に当たり、積極的なご理解とご協力を頂き今日の農園活動への一歩を踏み出させていただきました。このたびオオムラサキの観察台の実現に当たり謝意を表します」

●朝市に大勢のお客さん、29日 すごい人気 いつもの常連さんが楽しみにお越しです。連続8回目の朝市で、放送で案内を行いますと、すっかりおなじみの皆さんが大勢買い求めていただきました。午前8時から9時までの一時間の出店ですが、新鮮でおいしいとか、大変安いといった声が

聞かれました。しかし100円だから、ほしいのだけれど大きすぎて食べきれないといった声も聞かれました。次回は12月27日の年末の日曜日と決めて散会しました。大村、芳川、深田、森島、澤江、小泉さんが早朝から頑張ってくださいました。

●炭焼体験の原木とナラ枯れの巨木の伐採6日(日)9時30分里山農園に集合

昨年から気になっていたナラ枯れ里山農園の周辺に広がって殆どに葉が付きませんでした。中には小枝に加えて太い枝も落下しています。万一の事故防止のために伐採を急がなくてはなりません。緊急対策として6日に実施します。池の方向へ倒れては後始末が大変なので、うまく倒すために人手が必要です。午前中に切り倒しておきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。今年最初の炭焼きの原木として使用します。

●河川整備基金に交付助成100万円を申請(27年度の魚とり会場通路整備とイベント助成)

オンラインシステムでの申請というもので、初めての挑戦でした。パソコンの使い方も不十分だったので、記入しても記入しても記憶してくれず、小さなミスに気づくことができなかつたので、大変時間がかかりました。締め切り直前の28日の日曜日は、朝から何が何でも申請を完成させようと意気込んで打ち込み続けました。しかし同じミスの繰り返しが続き、根気を失いかけること幾度もありました。そのたびに少し休憩して繰り返し気を持ち直して、やり直しました。助言をもらえる先方は土日祭日を休んでいるので、ヒントをいただけず、日曜日の29日は結局悪あがきに終わったようなものでした。月曜日は締め切り日です。朝一番に、問合せ先(東京)に聞きなおして、何とか前に進むことができました。申請本文が完成しましたら、添付書類の記入です。定款や決算書類一式の添付挿入に、深田さんの応援を受けて、やっと完成できました。この基金への申請チャレンジは11月の初めから取り組んでいましたが、最終締め切り時間の18時の1時間前に送信ができました。それにしても最も重要なことは、その時々(里山の会では通常総会)にきちんと記録を作成しておくこと、総会時の諸提案を正確に行うことが常にできているので、必要な場合に間に合ったのです。ご協力に感謝いたします。しかし努力が報われるのは審査に勝ち残らなければなりません。不採択になる場合が50%以上いや70%だということなので、ダメ元と開き直っていますが、難しい申請受付がクリアできたことはうれしいことです。交付決定を楽しみに待ちましょう。

●ミカン農家へ収穫ボランティア募集

奮ってご参加ください。先週号でも紹介しましたが、予想を超える大豊作です。かなりの人手が必要です。9時30分JR多賀駅前に集合をお願いします。現地へ移動します。現地をご承知の皆様も多賀駅に集まってください。現地は駐車場が狭く押し寄せると混雑しますので、調整のために、多賀駅集合をお願いします。

●京都府環境フェスタ準備進む

松かさツリーの準備で100個準備を播川さんと森島さんで3日に完成させていただきました。展示物では、竹蛇籠の取組、ホテルの産卵写真、木津川生育植物標本写真集、木津川読本説明 水質調査を予定しています。農産物の販売では大根や柿などを準備します。なお今年は初日の15時からステージ発表も里山の会が行います。竹蛇籠とオオムラサキの産卵で発表行ないます。

●竹蛇籠設置を振り返る

竹蛇籠の設置のきっかけ 里山の会と木津川河川レンジャーは、魚取りを通じて河床低下問題やダム堆積砂問題等、木津川の変化を学習する中で魚の魚種や生息魚量の変化に気づき、竹門先生講演での提起をきっかけとして竹蛇籠の設置を決定(通常総会・活動方針)。

事前杭打ち 設置場所の検討を行い、最も人力の必要な杭打ち作業の可否を現地で確認し、何とか実行可能と判断。

事前研修(静岡へ) 見たことも作ったこともない経験不足から、現地を訪ね、説明を受ける。

竹伐採作業 10m蛇籠のために必要な7mの真竹200本の確保に10月とはいえ暑い日中二日がかかりで伐採。学生諸君の応援と熊谷さんの応援が無ければ、切出しはもちろん運搬も不可能だった。

全体作業場所の確保 作業員100人の作業場所確保(材料置場の必要もあり)に奔走する

竹割作業 200本の竹割作業は予想以上に継続した体力が必要であった。800本に割り上げる。学生の協力が無ければとても間に合わせられなかった。製作作業にも手間がかかる。

玉石運搬 規格通りの玉石は確保できなかった。50トンの玉石の運搬には木津川出張所の援助を得た。

当日の歓迎おもてなし検討 約100人の遠路はるばるこられる皆さんにおもてなしを検討。

里山の会が生産した白米と手作りの黒豆味噌で昼食と決定。

初日は予想をオーバーする120人となる。

当日の作業手順 講習会での手順を検討するが、小泉氏の提案で決着。初日は、3本しか蛇籠が組み上がらず、翌日は教訓を生かして12本が完成。一カ所分(右岸2号)は後日竹垣方式で追加とする。

設置作業 2日間ともユンボ持参作業員8人をボランティアで協力いただいた田中組さんなくして完成できなかった。特にユンボ2台による杭打ちと玉石入れには、すごい威力を発揮。感謝、感謝です。

竹蛇籠の渡河 藤田カヌーさんのカヌー4艘の提供で台船を組み巨大竹蛇籠を渡河できた。

講師の宿泊と食事 早朝出発されて即講習指導の強行日程本当にご苦労さまでした。

宿泊所を四季彩館と決定。

参加者集 竹門先生に募集案内チラシの製作を依頼した。しかし当初、参加受付は大変低調で心配。しかし、蓋を開けてみると初日120人という予想をはるかに超える大盛況。

関心の高さに驚く。2日目は60人と半減、全体で180人となり当初目的を達成。

川への設置手続き 最も心配したのが設置できるかどうか、許可が得られるのかどうかだった。木津川土砂部会での議論と、河川レンジャー活動という位置づけ、全材料が木津川で調達するもので、持ち込むものは何もないことから研究試行という条件が整って、実行許可となる。関係機関の皆さん、特に木津川出張所の理解が大きい。

●みかん農家ボランティア5日、18人の参加

週刊ニュースで呼びかけましたところ、積極的にご参加いただき18名もの方がお集まりいただきました。好天に恵まれて順調にもぎ取り作業が進みました。昼食時間約40分を挟んで14時30分には完全に摘み取りが終わりました。終わりにはお土産に袋一杯のミカンを頂き帰路につきました。また例年昼食休憩にいただくぜんざいは本当に甘くて暖かくておいしかったです。里山の会の活動でお土産がいただけるのはこのミカン収穫ボランティアで、なんかうれしくなる帰路でした。

●クヌギの伐採 6日 懸念した通り傾きがきつく池に倒れる 立ち枯れの始末にてこずる

ここ数年炭焼き体験としての原木の切だしを兼ねて、里山農園周辺の樹木の伐採を行っています。今年はナラ枯れが見渡す限りコナラやクヌギが全滅状態です。巨木なので枝も太く大きく重たいので枯れ落ちるな

どに遭遇すると危険な事態となっています。とりあえず、中の道の枯れ木だけでも伐採の必要があるので、この日5人が取り掛かりましたが、あいにく予想していた通り池に倒れて、溜池からの引きあげに大変手間がかかりました。そうとう苦勞したので、午前中で集中力が切れました。少なくとも、あと3本は伐採しなくてはなりません。さらに南の道や教育棟に倒木の心配があり、10号地にも倒木予想される巨木が数本あります。

● **京田辺市の農業委員会研修会に参加 講演とワークショップ 4日13:30 コミュニティホール**

通りがかったので傍聴を希望しましたところ許可があつて、参加しました。農業委員さんや農家の皆さん約100人が参加されていました。滋賀県甲良市の営農集落の取組みの講演があり、この12年間集落営農組合に加入された組合員は全員農機具を購入しなかった。これからはなくてもいい。また大型農機具を組合として購入し、オペレーターを交互に行っている。高齢化や離農が進む中「儲からないけれど損をしない農業」に直ちに取り組んでほしいと結ばれました。続いてワークショップでは特産品の開発、儲かる農産品の研究が必要と強調されました。全国共通の高齢化、後継者、販路確保等の問題点も話題になりました。

● **大阪花博記念協会から「里と街をつなぐ」として活動報告とパネル展示の要請が届く 電話とメールで依頼が届きました。大阪の花博協会からの依頼です。どういう経路からお誘いが来たのかわかりませんが、是非にということで発表を了解しておきました。2月11日です。場所は鶴見公園です。つながりが広がりましたね。**

● **結成20周年記念事業の準備進む** 木津川の植物の撮影作業を上島さん近藤さんがすでに約1000枚の撮影をいただいています。10日にはまとめ作業が予定されています。

今年の暑い夏の中で、懸命に頑張ってくださいました。本当にすごい努力の結晶作品です。

● **2015年十大ニュース原案が集約(33項目)事務局会議で抽出しました。**

皆様のご意見もお寄せください。

1;教育棟の完成。3月20日 2;木津川生育植物標本写真集の40冊発刊(国会図書館等寄贈)3月25日 3;里山農園周囲の山の整備を実施(ナラ枯れ全山に)1月10日 4;冬の観察会でオオムラサキ幼虫34匹の生育確認(生態園記録)2月22日 5;近畿子どもの水辺交流会 in 京都に里山の会関係から3チーム出場 1月24日 6;オオムラサキ観察会6・7月に4回開催 7月4日産卵に会う6月20・27・28日7月4日 7;夜間生物調査初実施(里山農園教育棟の活用)7月20日 8;里山農園通路排水路一部修理2月21日 9;春の野草を食する会教育棟で初実施4月11日 10;小林君が近畿地方整備局研究発表会で奨励賞受賞6月29日 11;南駐車場南浜斜面に下る通路実現(魚とり可能に)3月22日 12;新名神高速道路建設現場視察5月23日 13;レンリソウ保存のための抜草作業実施(同志社学生・小林君)5月30日 14;赤田川樋門建設に伴う希少植物移植に立会6月2日 15;里山農園ササユリ5個開花6月9日

16;ホテルの夕べ里山音楽会・里山農園教育棟で実施6月13日 17;魚とり4連続で開催 164.54.120.45名 6月19日7月24日8月4・23日 18;朝市に出店(府営田辺団地連合自治会に協力)5月28日 19;竹蛇籠の事前研修会 8人(静岡県島田市原小組)8月4日

20;環境庁からの講師依頼が実現(第19回里山講演会)9月6日 21;竹蛇籠用の200本の竹伐採と竹割に学生の応援で成功10月4・5日 22;竹蛇籠づくり6か所を設置180人の参加10月17・18日 23;秋のハイキング大江山に行く(14年ぶり)11月14日 24;オオムラサキの年中成長観察施設完成(観察台)11月28日 25;3年連続笠置から大阪までカヌー下り実現11月21・22・23日 26;城陽市環境フェステ綿菓子長蛇の列(1時間待ち)10月25日 27;ミカン農家収穫ボランティア未曾有の大豊作 18人参加12月5日 28;年末餅つきしめ縄づくり大人気12月27日 29;会誌39号発刊 11月3日 30;里山週刊ニュース発行596号(600号目前)12月30日 31;「草内渡し浜親水公園」着工3月25日 32;農園販売30万円突破12月9日 33;府地域力再生プロジェクト事業交付金3年連続決定8月7日。

● **19日冬の生き物観察会(オオムラサキの幼虫調べ)参加者募集 桜谷保之先生来所(18・19日)**

両日とも集合は里山農園生態園 10時より調査開始 15時まで 一般の皆さんは普賢寺小学校前10時にお越しください。お迎えに行きます。

● **17日午後13時より右岸2号竹蛇籠に玉石入れを実施**

どなたでもご参集ください 集合は玉水橋東詰

ご参集いただいたみなさんで完成を祝います 水に入ることはありません

普賢寺の谷のオオムラサキの幼虫何匹確認できるだろうか
来春にオオムラサキの放蝶会の開催をしよう

●京都府環境フェスタ

前日準備の11日は農園での野菜の収穫作業と会場の展示作業に分かれておこないました。大根やコカブ、などきれいに土落しの後水洗いです。芳川さんが真っ白なきれいな美味しそう大根と蕪を並べます。気温が高くいい出来栄です。束ね役は大村氏が行います。森島さんや小泉さんは運び役をひきうけて作業が進みました。展示は深田さんと山田さんが京田辺市の文化祭の写真モデルにして改善しながら手際よく貼付しました。一方の野菜販売には会議机が一つだけでしたので座敷机が必要となり、事務所に引き返して会議机4台と合わせて持ち込みました。展示では竹蛇籠のスローガン幕をスカートに使い大きく宣伝することになりました。

初日の土曜日は少し天候が心配でしたが、徐々に持ち直してきました。それでも午前中はお客の集まりが弱く、松かさツリーづくりは閑散でした。担当の森島さんや播川さんは手持無沙汰。午後になって、やや人だかりが数回という状況です。農産物販売は、昨年の大不人気響いてか野菜の出展は里山の会のみで、独占販売となり、何とか持ち込んだ品物は売り切れしました。昨年の不人気の経験から準備品を少なめに控えましたので、完売になりました。売れ残りを予想していましたが、明日の販売物がなくなったので、大村さんと小泉さんが午後から収穫に戻りました。

この日に15時から、里山の会のステージ発表があつて、木津川での竹蛇籠つくりとオオムラサキの産卵写真と観察台、そして木津川生育植物標本写真集の紹介を福井波恵さんと山村がおこないました。昨年の中辻さんの農園発表に続いて2年つづいての紹介でした。

二日目はそれほど寒さもなく手頃な気候で、11時ごろには、かなり賑わってきました。やはり野菜は早く売れています。松かさツリーも常に2~3人が座っていました。しかし爆発的な盛り上がりには程遠いようです。それでも午後には、松かさが残り30個となり、担当していただいている近藤さんや播川さんそれに深田さんと相談して売れ残りを持帰らないように完売をしましよと、お互いにハッパをかけあつて、最後まで頑張りました。呼びかけや呼び込みにも随分と熱が入り満席状態がしばらく続きました。100円の“松かさ”を3個残して200円は完売できました。終了時間(16時)の1時間前でした。三日間のフタッフは合計28人の皆さんにご協力を頂きました。

●竹蛇籠竹柵完成 玉石投入三分の一

竹蛇籠を設置したのは10月18日で、早くも2ヶ月が経過しています。青かった竹の色もすっかり色あせてきました。予定は6基の設置でしたが、右岸の2号は蛇籠が編み切れなかったため、松杭八本を2列に打ちこんで、後日竹柵工法で行うことで作業を終了しました。その後会誌39号の発刊や城陽市緑花祭りへの参加、オオムラサキ観察台の建設と上り初め、河川基金申請、京田辺市民文化祭への参加、ミカン農家ボランティア、原木の切だし、そして京都府環境フェスタへの参加とイベントが目白押しで、これまでの20年間で最も多忙な時期をやっと切り抜けられたところです。竹蛇籠・右岸の2号への玉石投入に取り組む余裕が生まれました。竹柵を作りますので、真竹10本を再度切だし、現地で竹を割って、どう長靴を履いて松杭の柱に竹を編み込んで柵が完成しました。そして玉石の投入となります。これが大変な重労働です。先頭の杭までは約10mあります。陸上から投げ入れるのです。長らく石投げはやったことが無いので、目的地に命中した投げ入れが出来ず、なるべく大きい石を選ぶと重たくて、とても放れず届かず、手前でドボンと落下です。これの繰り返しですが、何とか水面まで30cm程を投げ入れ積みあげました。あとは歩み板を使って一輪車で運びこむこととなります。17日には残りを運びこむと、竹蛇籠が完全に完成したこととなります。やっこここまでこぎつけられました。水が暖かくなって産卵が始まって、稚魚が群れてくれる春が楽しみです。

● オオムラサキ幼虫観察会 19日（朝日新聞が案内記事でお知らせ）

これまでの観察会でオオムラサキの幼虫が見つからなかったことは一度もありませんでした。近頃はかなりの数が見つかるようになりました。きっとエノキの群生が見つかったのではないかと考えてきました。どうやらそれだけではなく、ほかに気温の上昇などという条件が作用しているのではないかと思います。これまでは2桁の発見などは考えられなかったからです。それほど自然条件が厳しかったと思われます。今年はなんとか60匹の発見にチャレンジしようということです。それにしても見渡す限りクヌギやコナラ等オオムラサキの成虫のための樹液の木が枯れ始めています。18日は桜谷先生が事前調査にお越しいただきます。また19日にもご指導を頂けることになりました。ぜひ多くの皆さんのお越しをお待ちしています。両日とも午前10時には調査を開始する予定です。里山農園にご参集ください。終日御参加いただければ大歓迎ですが、少しの時間でも結構です。短時間のご参加でも、自然に触れることを大切にしています。里山農園が判りにくい場合、午前10時京田辺市立普賢寺小学校前にお集まりください、迎えに参ります。

●年末餅つきとしめ縄づくり 27日

27日に恒例の年末餅つきとしめ縄づくりを行います。一臼つき賃500円で20臼の注文をお受けします。一臼3kgと予定しています。また、参加費は500円でつき立てのおもちを食していただきます。おろし大根や餡餅黄粉餅、砂糖餅、醤油餅などいろいろ試してみませんか。今年の代表漢字は「安」と決まりました。安心、安全、不安と社会では出来事が一杯です。又各位にもご多忙の一年であったことでしょう。餅つきのわずかな時間でも少し俗世を離れて、餅つきをしましょう。お米を前夜に洗ってご持参下さい。また、もち切り機を借用させていただければ大変有り難いです。お願いできないでしょうか。

●年の締めくくり朝市 27日

今年5月から田辺府営団地連合自治会さんから呼びかけていただき、野菜の朝市に参加させていただきました。早くも師走の終い朝市となる27日です。里山農園で育てた新鮮なとれとれ大根、ミズナ、キクナどれも本当においしいと評判です。数量に限りがあります。品切れのときはごめんなさい。午前8時から店開きで、9時までの1時間です。

●京田辺市の最高峰は普賢寺高船の千鉢山で311mです

シンボルと呼ばれている甘南備山は100mも低い211mです。この千鉢山に3.5kmのハイキングコースを開設しています。このコースは個人の所有地を通過させていただいています。年末に心無いハイカーさんによるポイ捨てゴミを拾ってきれいにして新年を迎えましょうと、今年も29日午前9時30分、登山口集合で初めて12時には終了です。大勢来ていただければ3班に分かれ分担距離を短くできます。師走に京田辺市の最高峰を極めて、新年を迎えられてはいかがでしょう。午前9時20分に普賢寺小学校前に集まっていたいただければ迎えに行きます。

●新年七草摘みは6日（水）午前9時30分里山農園で行います

これまで行ってきた木津川では春の七草が年々少なくなって開催が無理のようです。新年には初めて里山農園に場所を移します。間違わないようにお願いします。

● 2015年里山の会十大ニュース

里山農園で初めて開いたお茶会 11月28日を加えて34項目となりました。これを23日の事務局会議出席者で投票した結果をお知らせいたします。

1位：*竹蛇籠づくり6か所を設置 170人の参加 15.2km 地点

2位：*木津川の生育植物標本写真集の40冊発刊 国会図書館等寄贈 *オオムラサキの年中成長観察施設完成 観察台

3位：◎オオムラサキ観察会4回開催

4位：*教育棟の完成 *夜間生き物調査会初めて実施 オオムラサキの産卵撮影 里山農園教育棟の活用 *春の野草を食する会教育棟で実施 *ホテルのタベ里山音楽会・里山農園教育棟で実施 *京都府地域力再生プロジェクト事業交付金4年連続決定

5位：*冬の生き物観察会でオオムラサキの幼虫生育確認 生態園の記録(34匹) *新名神高速道路建設現場視察 *魚取り4連続で開催 164人 54人 120人 45人 *里山農園販売30万円突破

6位 *里山農園周囲の山の整備実施 ナラ枯れ全山に *里山農園ササユリ5花開花 *環境庁から講師派遣が実現 第19回里山講演会 *朝市に出店 京田辺市田辺府営団地 *城陽市環境フェスタ 綿菓子1時間待ちの長蛇の列。

● オオムラサキの幼虫調べ

17・18日 成果:::オオムラサキ14匹 ゴマダラチョウ24匹 キチョウ1匹 カヤネズミ巣3個ということでした。昨年と比較すると大きく減少したことになります。気候の厳しさとか成虫の樹液の不足なのでしょうか、里山農園の周囲ではコナラやクヌギの巨大木が軒並みナラ枯れになって、夏にはほとんど葉をつけていませんでした。これまで樹液を供給していたものがなくなっていることは確かな出来事であります。また、エノキが新しく19本も発見されました。ところが笹竹に根元を覆われて、養分の多くが笹竹に吸い取られエノキの勢いが弱く落ち葉も少なく、ここでは幼虫を見つけることはできませんでした。来年に向けて笹竹を取り除き落ち葉が積もって幼虫が越冬するのにふさわしい環境を整えることでしょうか。次回2月にも桜谷先生は出席いただけるようです。日時が決まり次第お知らせいたします。3月はカスミサンショウウオ調査が11・12日と決まっています。

● 里山農園夏の日陰のコナラ ナラ枯れで伐採 農園の雰囲気が一変

里山農園の夏は緑が濃くて生き生きとしている、周囲の通路は雑草がおいしげって一面緑である。ここで草刈りや草引きの作業は大変暑い、そのとき足元の池の水とコナラの三本の木陰がほっとさせてくれる。昨年一昨年と二年にわたってマイマイ蛾の大発生が続いた。若葉が芽吹いたその折、毛虫が糸を垂らしたものすごい状況が続き、たちまちクヌギもコナラも全部若葉が食べられ、冬枯れの姿になっていた。しかし二回目の芽吹きがあって、夏にはいつものように木陰が癒してくれた。それから三年目には新しい芽吹きが見られなくなった。そして根元付近では鋸クズが撒き散らされたようになっていた。小枝がぼとりと落ち始めた。三本のコナラも同じような枯枝状態となって、このままでは落下するのは確実と判断。事故が起きてからは後の祭り。今年のイベントがすべて終わった12月20日予定より少し遅れたが、木陰を提供してくれた三本の木に感謝しながら伐採した。根元は巨大なものでどんな試練にも耐えきったと自信にあふれているように座っている。必ず新しい芽吹きが始まると信じている。

● 23日の事務局会議 昼食忘年会を実施

2015年も残り7日一週間となった。年の瀬は何かと忙しい。振り返るとこの一年は、とにかく忙しさが

倍増したようだった。十大ニュースの候補を挙げてみると、通常ならどれもこれもメインイベントの連続である。少なくとも3カ月前に企画を練り上げ、通常のようにこなして、数々の成果を達成しているのである。本当にすごい組織となった里山の会を実感した。しかし、寄る年波には体力がついてこないのも事実である。事務局メンバーも徐々に無理がきかなくなって、力勝負はむづかしい。毎週水曜日に集まる常連にも欠席がちらほら、新しい力を芽吹かせなければと思う。こうした状況の中で一年を慰労する会を企画したが、燃えるような賛同の声は聞かれなくなった。少し寂しい。年を感じるが、それでも昼食忘年会の開催では一致できた。一年を振り返り自画自賛で盛り上がった。新年に期待したい。

● 年末餅つきとしめ縄づくり・参加者募集 子どもたちにご案内

27日(日)10時から 木津川流域センター。先週号で年末の餅つきへの参加を呼び掛けたところ、早速高槻市から参加申し込みがあった。昨年初めて経験されて、今年も楽しみだとの事、週刊ニュースでこうした反応があると大変うれしい。数回開催してきた「さんさん」では年末年始の休園を長くするとの事で借用できなくなった。公民館など公設の調理場もほとんどが借りられなかった。そこで橋の下という案があって竹蛇籠を作った玉水橋や山城大橋などが候補となった。最後に木津川流域センターが最適となった。しかし、使用目的が餅つきやしめ縄づくりでは許可されないのので、一工夫が必要で、主目的をこの一年の川での活動を振り返る会として位置づけ、学習会とすることにした。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。カワガキの皆さんが沢山お越しのことと思います。

● 28日10時 ハイキングコースの年末清掃 ご参加を

12時前に解散 集合登山口(または普賢寺小学校前)。年末になると振り返りのニュースが多くなり、面白くないがハイキングコースの手入れを今年ほどしなかった年はなかったように思う。気にはなっているのだけれど時間がとれなかった。京田辺市の最高峰千鉢山へ登ろうと呼びかけて10年が経過した。当初はオオタカの営巣があるからとルートを変更しなければならなかった。隠し田圃があって、昔の知恵が感じられた。しかしそこを通行できなかった。ツボスミレの群生があったり、通路にギンリョウソウが見つかるなど楽しい道である。農家の主婦からは作物を持ち帰られるのでこまると否歓迎の苦情が聞かれた。5月の連休前と秋の行楽シーズンにコースの草刈を実行してきた。農園作業が忙しくなって、無責任になっているようである。こうしたことを反省しながら年末のごみ拾いを実行したい。ご協力をお願いします。

● 新年初顔合わせ 七草摘みは里山農園で 京田辺市普賢寺小学校前集合10時00分

里山の会の人気の定番事業は七草摘みと七草粥で新年の幕開けとなります。長年続けてきた木津川堤防付近は放棄されてきた田畑が手入れされるようになって、七草を確保できなくなりました。セリ ナズナ ゴギョウ ハコベ ホトケノザ (スズナ スズシロ) 里山農園では自然に生えているもので揃えることができますので、会場を移して実行することにしました。駐車場も確保できていますので、多くの皆さんが家族の健康を祈って冬を乗り切る良いきっかけにされてはいかがでしょうか。「君がため 春の野に出でて 若菜摘む わがころもでに 雪は降りつつ」のひと時をしのびましょう。

● 竹蛇籠づくり本番のDVD完成する

視聴会実施23日 15年の十大ニュースの第1位になった竹蛇籠づくりと設置のDVDが山田さんの手元で第1次分を完成させていただきました。約10分間に纏めていただきました。おおむね全体が良くわかるように編集されました。ご希望の方には1枚500円と送料350円のご負担で送らせていただきます。里山の会まで負担金を振り込んでいただければ一週間以内に送付いたします。